

「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」

文部科学省生涯学習政策局委託事業

- 1. 行事名 “親子で元気” 清須フェスタ！！
～「願いの木」から「気づきの木」まで
親子で楽しく学ぼう気づきあおう～

2. 行事のねらい

家庭教育に努力している親がいる一方で、問題や不安を抱えている家庭も多くあり、こうした現状を考えた場合、家庭教育は家庭内だけでなく地域や学校をはじめとする繋がりの中で行われることが、大切だと考えられる。

「願いの木」は、親として我が子にたいして“願いや思い”をメッセージカードに書き、そして、親子が楽しく参加しながら体験するなかで、「気づき」を得る。

3. 内容

清須市のイメージキャラクター「うるるん・きよ丸」を登場させ、“早ね 早おき 朝ごはん”の大切さについて、子どもにも楽しめるミニ劇にて始める。その後TV等で活躍されている、子育て真っ只中の父親、照英氏を招き、子育てや家庭教育をテーマとした、お話をしていただく。
後半では、親子で参加のできる、各種てづくりコーナーを設ける。おしゃべりサロンのコーナーでは、参加者同士が交流しながら「気づき」を得る場とする。

4. 行事の概要

日時 平成26年1月18日(土) 10:00～12:30
場所 清須市中央公民館(清洲市民センター)
参加者 未就学児・小学校低学年の親子287名
企画 清須市家庭教育支援チーム momo 清須フェスタ実行委員会

5. 清須フェスタの様子



「願いの木」に参加の様子



照英氏のトークショーの様子

「早ね 早おき 朝ごはん」



ジャンボしゃぼん玉の様子



手品を教わっている様子



母や父のメッセージや「気づきの木」を見ている様子
親同士の交流の様子
一ふれあいサロンにて一



手づくりサッカーボールで遊んでいる様子



親子で手づくりの様子



人気者のうるるん・きよ丸と一緒に



春日小学校お友達のダンス



新川中学校ボランティアの生徒さん

6. 参加者の声より(アンケートも含む)

- ・子育て、旦那に対しての意識が変わりました。また、明日から頑張れます。
- ・「休みを妻につくってあげる」しみました～。
- ・「願いの木」では、子どもから、学校での思わぬ悩みがきけてよかった。
- ・毎日、子どもと一緒に追いつめられるが、切り替えが大切だと思った。
- ・親子で参加できて楽しかったです。

7. 成果と課題

父親として、子育てに関心をもっておられる方が参加されたこと、また、たくさんの親子に多く参加していただけたことが、企画のねらいに繋がったと思います。

照英氏から、父親の立場として、家族への思いや、またご自身が親からうけた愛情について身近に感じるお話をしていただきました。参加者からは、「子育てに携わる旦那様に対して、意識が変わりました」「明日からがんばれます」「家族がなかよくするコツがわかりました」などがアンケートに寄せられました。

親子でチャレンジコーナーでは、親子が一緒につくる様子は、ほほえましく感じました。

また、中学生のボランティアが、子どもたちに教えたり、相手をしてくれる姿は、印象に残りました。

今回の“清須フェスタ”に参加し、見る・聴く・体験する中で参加者の方々が、多くの「気づきの木」を得られたことが、アンケートなどから、感じとることができました。

開催日を土曜日としましたが、不参加の理由のひとつに、塾や習い事等がありました。現代の子どもの日常をかいまみることとなりました。また、委託されてから開催までが、短期間であったため、準備や練習時間が不足であったことが、心残りとなりました。

最後に、私たちが「清須フェスタ」を企画運営するにあたり、多くの先生方のご指導や、行政の方々やチーム momo を応援して下さる方々のご協力のおかげと感謝しております、ありがとうございました。

また当日ボランティアとして、桃小Pおやじの会、桃栄小学校の先生方、新川中学校の生徒さんたちのお力をお借りし、無事終えたことを、心より感謝しております。

今後も、今回の経験を活かして、子育てや家庭教育支援の活動を続けていきたいと思ひます。

(3) 平成 25 年国委託及び件補助事業報告について
平成 25 年度 学校支援地域本部事業活動報告

「つなぐ・ひろがる ボランティアネットワーク」

—地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えるために—

清須市学校・家庭・地域連携推進協議会

1 はじめに

本市では平成 20 年度より西枇杷島中学校区において、本事業の取り組みを開始し、平成 22 年度からは、読書ボランティア養成講座を定期的で開催するなど、ボランティアの育成に取り組み、平成 23 年度には、清洲東小学校と春日小学校。平成 24 年度からは、清洲中学校と星の宮小学校にも事業を広げた。そこで、地域コーディネーターもバランスを考慮し、中学校区で 1 人ずつ、全 4 人を配置した。今年度はさらに、新川小学校と清洲小学校で、事業を開始した。これにより西枇杷島地区と清洲地区の 2 地区で、中学校区での活動が可能となった。各学校の特色と要望を把握し、ニーズにあった人材情報を収集することにより、地域ボランティアのネットワークづくりを進めている。

2 事業の概況

(1) 清須市学校・家庭・地域連携推進協議会開催

6 月 25 日 第 1 回 平成 24 年度の事業報告、平成 25 年度の会長、副会長の選出、事業の説明、平成 25 年度の事業計画

1 月 24 日 第 2 回 活動報告と来年度の計画について

(2) 学校支援ボランティアの募集

新たに取り組みをする 2 つの学校では、保護者に向けてボランティア募集チラシを配布し、学校支援地域本部事業についての周知を行った。ボランティア活動毎にボランティア同士が声をかけあい、趣旨を説明しながら仲間を募った。また、さまざまなボランティアグループが交流することにより、活動が活性化し、ボランティアの登録人数も増加した。

(3) コーディネーターの活動

それぞれの学校の状況に応じて、地域コーディネーターが打ち合わせをしながら進めていった。コーディネーターとしての技能向上の為、愛知県主催のコーディネーター等研修会や生涯学習講座等にも積極的に参加した。また、4 地区のコーディネーター同士が連携・協力しながら各学校の要望に応えた。そのため地域を超えて、清須市学校支援地域本部事業としての一体感も生まれた。

(4) ボランティア養成講座の開催

読書ボランティア養成講座を、春日地区において開催した。4 年間で養成したボランティアと、各学校で活動しているボランティアにも声をかけ、今年度 2 月に、読書ボランティア・ステップアップ講座を開催して、ボランティアの技術向上とともに交流を深めた。この読み聞かせ養成講座を修了した中学生が、夏休みに清須市立図書館にて、おはなし会を実施した。

また、愛知県地域活動コーディネーター研修会では、本市での活動の事例発表を行った。

3 学校支援ボランティア活動の実際（抜粋）

（1）西枇杷島中学校での取り組み

◆読書活動推進の支援

本校は、読書好きな生徒が多い。本事業の支えで、就学前から小学校まで読み聞かせをしていただいているのも大きい。また、生徒は朝読書にも取り組んでおり、わずかな時間も集中して本を読む習慣がついている。しかし、予算の関係で学校に新刊をそろえるのは難しい現状がある。そんな中、本市に平成24年に市立図書館が春日地区に開設された。市立図書館の蔵書を本校で貸し出すことを要望したところ、市立図書館職員やボランティアをコーディネーターが結び、毎月100冊の本が本校で貸し出し可能になった。「きずな文庫」として、本校の図書委員会の活動に連動して、水・金の2限放課と昼放課にボランティアに本の貸し出しを依頼している。生徒には大変好評である。



【図書貸し出し】

◆部活動支援（楽器運搬）

ブラスバンド部は、秋に清須市四校合同演奏会を開催し、発表の場を設けている。清須市春日公民館で演奏するのだが、日頃は音楽室で練習しているため、舞台上でリハーサルを行いたいという声が生徒から上がった。そこで、カルチバのホールを借り、リハーサルを行う機会を設けた。そのために楽器を運ばなければならないが、あいにく、市の行事と重なったため、公用車のトラックを借りることができなかった。コーディネーターに相談したところ、地域の方に声をかけ、楽器の運搬のトラックを運転手も含めて、お願いすることができた。生徒は大変喜び、本番の演奏にも例年以上に熱がこもった。



【トラック運搬】

◆防災訓練の支援

本地区住民は東海豪雨で被災している。その時生まれた生徒が今年一年生として本校に入学している。本地区としての防災意識を高め、今後起こると言われている東海大地震に備えるために、学校単独の避難訓練だけでは十分ではない。そこで、生徒が地域住民とともに救援活動を行うことを盛り込んだ防災訓練を企画した。『に：にげのびろ し：じゅうみんとともに び：ひなんじょへ』をスローガンに、3学期始業式の後、避難訓練に引き続き、にしび防災訓練を行った。日本赤十字や地元のにしび防災ボランティアクラブ、PTA、さらに本事業を支えているボランティアの協力を得て、救命講習や豚汁の炊き出し体験等を行い、地域と連携した防災教育への礎を作った。



【炊き出し訓練】

◆校内美化・学校行事の支援

下小田井防犯協会の協力で、本校のアジサイ園は通年にわたり、維持管理されている。また、体育大会・文化祭等の学校行事の運営に関して支援をいただいている。その際に行事の様子・生徒の活動を見てもらうことがで



【アジサイ園の整備】

き、ボランティアの方にも喜んでもらっている。地道な活動であるが、継続してもらえることを願う。

(2) 西枇杷島小学校での取り組み

◆環境整備支援（さつまいも畑の土づくり・さつまいもの収穫）

春、ボランティアの方に学校園・畑を耕運機で耕して土をやわらかくしていただき、さつまいもの苗を植えた。野菜の育て方を畑の先生から教わりながら、秋には大きなさつまいもを収穫することができた。そして、収穫したさつまいもで、子どもたちがカップケーキを作り、お世話になった方を招いて感謝の会を開いた。



【土づくり】



【野菜の育て方】



【図書修繕】

◆読書活動推進の支援（本と友達に）

よい本とたくさん触れ合う機会をもたせたいと、読書ボランティア「スマイル」の方々が、低学年図書室での本の読み聞かせや、読書週間の読み聞かせ、教育相談週間の長い放課時間を使っての大型絵本やクイズなど工夫した読み聞かせを行っている。今年度は、初めての影絵劇。夢のような不思議な影絵の世界に引き込まれ感動した。

また、子どもたちがいつでもよい状態で本を手にとることができるように、図書の修繕も行った。子どもたちも修繕の仕方を教わりながら一緒に作業をした。

◆見守り支援

寿会の方々が中心となって、子どもたちの登下校や地域での日々の安全を見守ってくださる。夏休みには、毎年「ふれあい除草作業」をPTA主催で行い、児童と保護者、地域の寿会の方々が交流しながら除草活動を行い、学校をきれいにしてくださった。

見守り活動だけでなく、1月には、3年生が社会科で昔の暮らしを教えていただき、交流を深めている。

(3) 古城小学校での取り組み

◆見守り支援と学習支援

10年以上にわたり、継続して活動している「みまもり隊」は、地域の寿会の方々が中心である。毎日、交差点、横断歩道、踏切など、危険箇所に何人か立って、児童を交通事故や不審者から守っていただいている。また、夏休みのPTA主催で行われている「親子除草」、「運動会」における防犯活動、「マラソン大会」の走路警備などにボランティアとして参加している。小学校3年生の社会科では、「三



【三世代交流】

世代交流」に祖父母として、お話をするだけでなく、一緒に給食を食べたり、遊んだりして児童との交流も深めている。

◆読書活動推進の支援

毎週金曜日には、読書ボランティア「HAPPY×2」による朝の読み聞かせが行われている。また、2学期には、小道具、大道具はもちろん、脚本から、上演まで全てが手作りの朗読劇がある。今年で12年目となる活動であるが、毎年、全校の児童が楽しみにしている。

◆学校支援学生ボランティア

昨年度から、清須市教育委員会を通して、年間20回ということで、大学生のボランティアに来てもらっている。内容は、主に担任の補助と修繕、清掃の手伝いである。児童の安全面、環境整備の面としてとても助かっている。

(4) 清洲中学校での取り組み

◆家庭科保育実習への支援

1年家庭科の授業で、幼児との関わり方を学ぶ保育園参観がある。ボランティアは、事前学習の段階で、幼児との基本的な接し方や読み聞かせ、手遊びの指導をした。また、当日は、生徒の引率補助や保育園での活動のサポートに取り組んだ。



【保育園訪問】

◆読書活動推進の支援

本年度より始まった、清須市図書館から毎月本100冊を借りて、本校図書館に置き、貸し出しを行う、「きよ丸文庫」の活動である。毎週月・木の昼放課、ボランティアが本の入れ替え及び貸し出し作業、図書館通信の発行、図書館の環境整備にあたった。

◆部活動支援 (吹奏楽部チャリティーコンサート楽器運搬ボランティア)

吹奏楽部は、年3回市民センターで、東日本大震災のチャリティーコンサートを行っている。ボランティアは、コンサートの準備・片付けに協力し、主に楽器運搬を手伝った。

(5) 清洲小学校での取り組み

◆読書活動推進の支援

学校には、高学年図書室、低学年図書室の二つの図書室がある。子どもたちの図書室利用は盛んであり、傷む本も多い。新着本も多く、図書の整備は大変な作業である。年度はじめと12月に二つの図書室の大掃除をし、月1回、新着本の整備、傷んだ本の修繕を進めている。月1回の作業では追いつかないことも多かったため、昨年度は21回の作業を行った。今年度も同様のペースで作業を続けている。



【新着本整備と修繕】

コート紙貼りや修繕は技術がいる作業であるが、会員が継続的にその技術を他の会員やボランティアに伝え、現在では30名以上が図書整備作業に当たっている。

また、新着本のカバーを利用して作ったしおりは、子どもたちが図書室で30冊本を借りるごとに児童図書委員



【出来上がったしおり

ープレゼント用】

からプレゼントとして贈られるものである。ブックカバーの適切な部分をしおり大にカットし、パウチする。穴をあけ、色とりどりのリボンを付ければ、かわいくきれいなしおりの出来上がり。ストックをたくさん作っておくのだが、子どもたちに人気ですぐに減ってしまう。

(6) 清洲東小学校での取り組み

◆読書活動推進の支援

昨年度に引き続き、28名の地域ボランティアによる図書館整備が行われた。今年度は、清須市立図書館の図書館司書から専門的な技術を学び、170冊の本格的な本の修繕を行った。



【図書修繕】

また、読み聞かせボランティア「びっくりばこ」を中心に西枇杷島小学校・古城小学校の読み聞かせグループとともに、朗読劇が体育館で上演された。事前に伝統芸能保存会民謡部・太鼓部の方々による清須音頭の指導があり、劇中では子どもたちもいろいろな場面で活躍することができた。

◆学習支援

3年生の授業の中で、地域のボランティアの方に、昔の暮らしについて語っていただき、給食を食べながら交流を深めた。また、問屋町記念館を見学する際に、地域ボランティアの方から、説明を受けた。

(7) 新川小学校での取り組み

◆子育て支援

10月の就学時健診の時、保護者向けに、チーム momo の活動内容を紹介していただいた。

◆読書活動推進の支援

11月の「みのりの読書週間」(11月6日～11月20日)にボランティアの方々に低学年の児童へ読み聞かせをしていただいた。

◆環境整備の支援

9月14日土曜日、校庭にある投てき板の修繕をPTAが主催してボランティアを募り行った。この投てき板は、平成6年に作られたものでペンキがはがれたり、板が割れていたり、古くなっていた。当日の作業は、古いペンキを剥がしたり、板の補修をしたりすることから始まった。その後、緑のペンキをローラーで塗り、段ボールで作った数字の型を投てき板に貼り付け、上から白色のスプレーをかけて数字を描いた。完成まで、約5時間。ペンキが乾き生まれ変わった投てき板は、子どもたちが遊びに来るのを待っているようであった。



【投てき板修繕】

(8) 星の宮小学校での取り組み

◆読書活動推進の支援

教育相談週間の長い放課を利用して、相談を受けていない子に対し多目的教室「星のひろば」にて、6月と11月に各1週間、本の読み聞かせを行った。低学年を中心に毎回50名程度の子どもたちが参加した。大型絵本や紙芝居、楽しいクイズなどに興味をもって物語の世界に入っていく、本の楽しさをたくさんの子どもたちが味わった。

また、8月には学校図書室の本の整理を読み聞かせボランティアの方に手伝っていただき、2学期からの図書室の利用がしやすくなった。

◆環境整備の支援

本校では、年2回、6月と11月に廃品回収をおこなっている。見守り隊の協力のもと、軽トラックを出していただくなど、地域の方の協力があり、回収や積み込みが大いにはかどった。また、多くの方に協力していただき、物品も例年よりも多く集まった。収益金は、星の宮小学校の教育活動のために活用している。

◆子育て支援

就学時健診の際に、来年度新1年生の保護者を対象に入学説明を行っている。昨年に引き続き、清須市の家庭教育推進グループ「チームMOMO」により、子育てに関する講演を15分程度行ってもらった。初めて子どもを小学校に入学させる保護者もおおり、大変参考になった。

◆見守り支援

P T A委員による、毎月0の日の登校指導と月1回の下校指導を行っている。

また、見守り隊の協力により毎朝と毎週木・金曜日を中心に登下校指導を行っている。6月3日の交通安全教室では、自転車の安全な乗り方指導を市の交通安全協会の方とともにやるなど、地域の多くの方々の協力を得て、子どもたちの安全を守るようにしている。



【教育相談時読み聞かせ】



【図書室整備】



【廃品回収】



【下校指導】

(9) 春日小学校での取り組み

◆読書活動推進の支援

今年度の夏休みに、連日の猛暑の中で、かねてから保護者による図書ボランティアが計画していた、低学年図書室をきれいで夢のある楽しい部屋にする「2013 低学年図書室改造計画」の作業が開始された。まず、必要な機材を運んでから、図書室の中の棚や机が汚れないようにビニルシートでマスキングしたり、壁や戸の表面にペーパーをかけてきれいにしたりす



【図書室整備】

る作業が行われた。次に、本格的に色塗り作業に入り、図書ボランティアに混じって、子どもたちや小学校の先生方のお手伝いも加わって、ボランティアは、廊下側の扉の絵を中心にした作業、子どもたちは、廊下に置いてある上靴入れに色を塗る作業、先生方は、図書室内の壁を塗る作業を行った。そのおかげで、色塗りしたところは、見違えるほどきれいになった。さらに、扉の絵を完成させ、廊下の壁へパネルを貼り付けた。最後の日は、仕上げにニスを塗った。こうして新たに生まれ変わった低学年図書室を見て、子どもたちはとても喜んで利用してくれている。

また12月18日には、地域ボランティアと図書ボランティアグループが一丸となって、朗読劇を成功させた。

◆宮重大根の栽培支援

毎年、3年生は、市の春日地区の伝統野菜である宮重大根を栽培している。子ども達は、宮重大根純種子保存会（20名）の方から、宮重大根の歴史や特徴および栽培手順とその方法についての説明を受け、9月上旬の種まき、9月下旬と10月中旬の間引きを行い、12月中旬に太くて重い大根を収穫した。1月中旬に保存会の方をお招きし、お礼の会を催した。子ども達は、農作業を通して、野菜に親しみ、地域の伝統を学習し、食を通して感謝の気持ちをもつと同時に、地域の方にとっては、次代を担う子ども達との交流を深める場となっている。

4 成果と今後の課題

今年度、2中学校で開始した「きずな文庫」「きよ丸文庫」は、公共図書館と連携し、さらにボランティアが毎週2回生徒と交流しながら行うという活動である。学校や生徒から直接声が聞け、大変有意義な活動となった。反面、ボランティアへの負担が大きく、どこまで続けていけるのか、不安要素も大きい。本市の学校支援地域本部事業のほとんどは、ボランティアの誠意と熱意に支えられての活動であるため、学校に密着した活動を継続していくためには、信頼できるボランティアを増やしつつ、機能的に活動できるシステムづくりが急務と言える。今後は、専門性の高いボランティアを開拓し、依頼があれば、どこの学校へでも派遣できるようなボランティアの組織づくりも必要である。

また、初めての試みとなった西枇杷島中学校の防災訓練での、地域住民とともに行った活動も非常に好評であった。今後は、防災教育にも視野を広げたい。また、地域行事へ児童生徒たちが参加するといった活動を、継続させることにより、「いつでも・どこでも・だれでも」できる地域に根ざしたボランティア活動の広がりを目指したい。

5 来年度の計画

本市12小中学校のうち、すでに9校で活動を開始している学校については、来年度も、継続して活動していく。現在、配置されている4名のコーディネーターだけでは、フォローできないため、各地区2～3名、コーディネーターの増員を目指す。学校毎に、地域コーディネーターを配置し、地域コーディネーターの活動拠点をおくことにより、各地域ボランティアからの信頼も得られ、各学校の特色ある活動をさらにきめ細かく支援できる体制づくりが可能となる。

市内全学校での取り組みを目指しつつ、学校と地域とがさらに連携を深め、様々な団体をまきこみ、学校と地域を結ぶネットワークをつくっていくことで、学校の教育活動の充実、さらには地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えていきたい。